



# 木曽林務課だより 12月

年末が近づくとつれ、来年度のいろいろな事業に向けた動きが進んでいきます。そうした事業の準備にドローンを使う新たな取り組みについて紹介します。

## ドローンを使って計画！



災害復旧のため行われる治山事業を進めていくには、現場の周辺を含めた現状をしっかりと把握することが重要です。

本年7月号の「木曽林務課だより」でお知らせしましたが、当課に本年度より配備されたドローンがこうした現場で役立っている様子を紹介します。

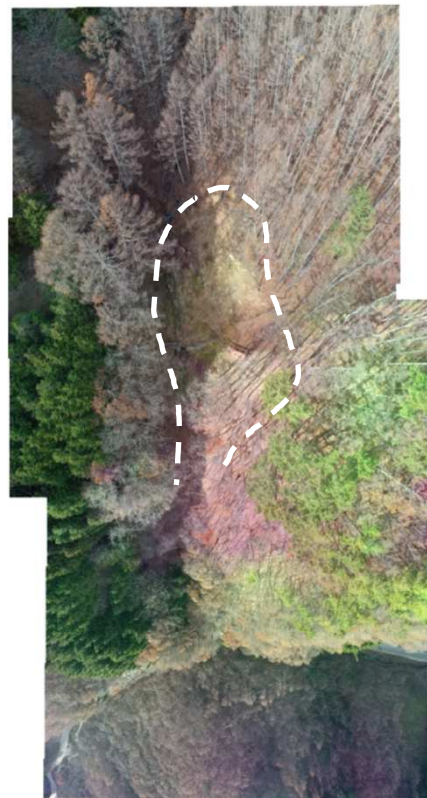
ドローンは、崩れてしまい危険で人が近づけない場所や、現地全体の像を把握したい場合などで安全かつ明瞭に撮影することが可能です。

また一定の高度から撮影した画像を組み合わせると、簡単に災害現場の全景を1枚の画像に加工できます。

こうした画像を測量結果などと併せて使うことで、より効果的な治山事業の計画を策定することができます。



復旧が進む崩壊地



治山事業を行う前の山腹崩壊地

